

安らぎを求めて！

疲れを癒しましょう。

毎年、夏の暑さが厳しくなってきました。猛暑日が八日と続き、ほんとにしんどかったですね。世間では、終戦七十年にあわしてか、子や孫に語り継がせるためかわからないが、戦前、戦中、戦後の有りようを、マスコミを通じて、放映されてきました。今、私たちは豊かに暮らしている時に、哀しいことが起こらないようにと気配りではないかと想像します。

でも、八月十三日、子どもの悲惨な事件が起こり、地域や保護者らに子どもの安全について再度考えさせられました。いつの時代でも、不幸が起こります。そんなとき、お地藏さまが、大地がすべての命を育む力を蔵するように苦悩の人々を無限の大慈悲の心で包み込み、救うところから名付けられています。子どもの守り神として信じられており、子どもの喜ぶ菓子が供えられています。そして毎年八月二十三日地藏盆の日として、お地藏様の前に、多くのお供え物をして、ご詠歌を唱えて、お地藏様に感謝をし、不幸ごとが起こらないようにされてきました。今では、個人の暮らしが重んじられ、地域の人々が集まって、つどいがないために、いろいろな不幸が出くわすのではないかと考えます。昔は、豊かさがなかったが、みんなでものをもち寄り、分け与え、もの感謝をして、地域のつながり強めてきて、みんなが幸せに暮らしてきたことを思い出していただきたい。昔の習慣はわずらわしいと感じると思いますが、復活してみませんか。きつと幸せを感じることができましょう。



後生

「ごしようだからお助けください」という時代劇のおなじみのセリフです。

漢字では「後生」となるのでなんとなくわかるかも知れませんが、佛教語で来世とか来世の安楽という意味です。今、身の危険に出くわすときに相手に頼み込むときに使います。私たちは心から次の世の幸せを願いたいものです。後生安穩です。お経には含蓄のある単語で成り立っています。その言葉に出会いながら、お暮らしくください。

これからの予定

もんちゅうきょうどう だいぞうきょうえんしゅ

門中共同の大蔵経会厳修

とき 十月十八日(日)

会場 音羽の蓮谷寺

※高島門中の持ち回りの法要です。檀家様が少ないお寺でいたしますので、みんな盛り上げていただければありがたいです。是非御縁を結んでください。詳細は別紙チラシを見てください。

お十夜の修行

とき 十一月六日(金)

午後二時 念仏講の先亡者追善回向と

数珠繰り

午後七時 袋米の戒名と諷誦文で回向

特別布教は、午後三時と午後八時半の二回有り

ます(総本山官長親下のお言葉を聞き、感謝の心をいただきます。

※詳しくは、チラシを配布しますのでご覧ください。

にちにちこれこうじつ 日日は好日

この句は。来る日も来る日も、楽しく平和な良い日が続く。一日一日を大切に生きる心構えを覚えてもらう。という意味です。

ところが、日常の生活の中では、いや(・)なことがいっぱい起こりますね。日日好日どころか、毎日が悪日の連続。「なんの悪いこともしないのに、私だけがなんでこんなに苦しまなければならぬのか。神も仏もあつたものではない。」と、自分の不幸を嘆く人のことを考えてみてください。あくまでも『日日は好日』は、目標なのです。生涯、善いことを積むことです。善いことを積めば、必ず、成し遂げられます。

雲門禪師のいう好日とは、好い日、悪い日という比べっこ(・)をやめた話なんです。つまり、好悪を越えた話です。自分の都合という(物差し)を捨てた時の話です。

そうです。世の中、善と悪の繰り返しです。善いこと悪いことばかりは続かないのが現実です。それでは善いこと悪いことは何かを考えて生きていくところ、生きがいを見いだせるのではないのでしょうか。



笑う門には福来たる

笑うところに福来たるとも言います。一家団らんで仲むつまじく生活し、日頃から笑いがたやせない和気藹々とした家庭には、幸福が訪れるものです。笑うと言うことはいつでも笑顔であることで毎日毎日楽しく思っているのです。この心の状態を言います。

この世では、どんな悲しいことがあっても。災難がやってこようと「何につけても」ありがたい、幸せだという感謝の気持ちの念を持って受け入れ、笑って一日を過ごせば、自然と不幸が集まってくるのです。

人生は何が良いのか悪いのかわかりません。老子が曰く。「禍は福のよるところ、福は禍の伏すところ」 怪我の功名で、幸せが訪れるということなのかもしれない。

びんずる会の活動

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をしますので、皆様のご参加をお待ちします。参加してみようと思われる方は、ご一報下さい。

お願い

前期の定式割の頂上ご覧の上、ご理解のお願いです。縮で恐縮です。お供えの金額は五百円から千円までお願いいたします。お力添えをお願いします。

第10回法話会

九月より毎月十五日に開催します。時間は午前七時半に変更します。

佛教の話やよもやま話を、心の洗濯をしますので、どなた様も承りますので、連絡ください。

発行者 高島市安曇川町田中三四五九

天台真盛宗玉泉寺 木村 哲基

電話 〇九〇一三七〇八一七二〇六

Eメール svka37375@leto.comet.ne.jp

ホームページ「滋賀高島石仏の玉泉寺」
ごらん下さい。

※住職日記のブログも更新しています。